

大学で馬を放牧！

JRA
日本中央競馬会
特別振興資金助成事業



岩手県立大学総合政策
学部渋谷研究室

農耕馬は農業の機械化などによって仕事がなくなり減少の一途。今では馬肉になることが主な仕事。チャグチャグ馬つの参加馬も減っています。
農耕馬には競走馬にはない優れた性質があり、それらを生かし今風の仕事をすることによって農耕馬を存続させることができるかもしれません。

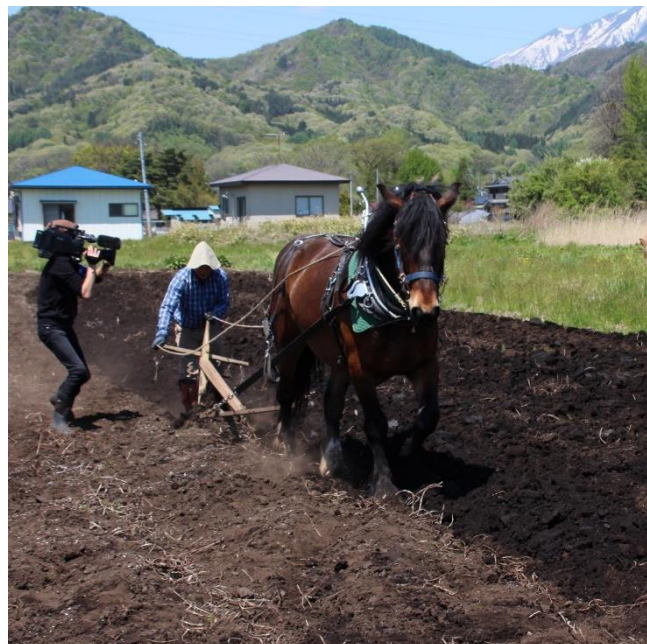
□岩手県立大学で放牧 草地管理の可能性

広い草地を持つ公園や公共施設などで草地の管理に使えるのでは？ 岩手県立大学の敷地で放牧を行い草地の管理を行ってみました。



□馬耕

5月22日滝沢市内のサツマイモ畑を耕しました。この畑は馬糞堆肥をすき込んでいます。



□安比高原自然草原の再生

■粗食に耐える農耕馬は安比高原の自然草原の再生に活躍



□乗馬・馬車

小さくておとなしく従順な農耕馬は乗馬や馬車・引馬に最適です



安比高原における農耕馬による半自然草原の再生

日本中央競馬会
特別振興資金助成事業

安比高原は岩手県北部八幡平市APPIスキー場の北西に位置する標高700～900mの高原です。ブナの二次林に囲まれたレンゲツツジの咲く美しい草原があります。**1000年以上も牛馬の放牧などにより半自然草原として維持されてきましたが、30年ほど前に放牧が停止され林に戻りつつあります。このため農耕馬を使った草原再生が行われています。**
この活動が認められ「**生物多様性アクション大賞2018【守ろう部門】に入賞**しました。



安比高原の草原の歴史

915年 十和田火山噴火 火山灰降下後 草原化
1050年頃 放牧開始？ 草原化が始まる
1550年頃 放牧の本格化？
1967年 安比高原牧野組合による短角牛の放牧
1985年頃 放牧停止
2006年 八幡平市と林野庁が「あっぱ高原遊々の森」協定締結 行政主導で草原の刈払い2012年 安比高原ふるさと倶楽部設立
2014年 馬の放牧実験開始(短期間 繁殖牝馬2頭)
2015年 農耕馬の放牧実験(5頭 4ヶ月)
2016年 農耕馬の放牧(4頭 5ヶ月)
2017年 農耕馬の放牧(5頭 5ヶ月)
2018年 農耕馬の放牧(7頭 5ヶ月)
2019年 農耕馬・在来馬の放牧(7頭 5ヶ月) ドサンコ、木曽馬



30年ほど前短角牛の放牧時代の草原(奥のまきば)

安比高原の草原の減少率

■ 1976 年80.61ha→ 1997 年44.23ha **54.9%減**

須山哲男・竹中昭雄・澁谷幸憲(東北農業試験場) 日本草地学会誌 47(別), 50-51, 2001-03-31より



現在の風景 草原に見えるところはササに覆われ樹木が大きくなっています。

農耕馬による草原の再生 ホースワークの提案

安比高原では、農耕馬を**有償で借りて**草原の管理を行っています。農耕馬が草を食べることが草原管理という仕事になっています。農耕馬の保存のためには「働く馬」の仕事を作する必要があります。働く馬「**ホースワーク**」の提案を始めました。

農耕馬の放牧による効果

農耕馬の放牧によって、放牧地内のネマガリタケが激減、葉はほとんど食べつくされ稈だけになってきています。あと数年放牧すれば消滅するものと思われます。また、ススキも相当食べられており、数年放牧すればシバ型の草原に再生することが期待されます。



放牧地外

放牧地内

放牧地内のササがほとんど食べられて放牧地外との差がはっきり出ている



ササの葉がほとんど食べられ稈だけになっている。



ススキも食べられ短くなっている